

3-4 状況に応じた避難行動をしましょう

ハザードマップで避難行動を考えましょう

1 あなたの自宅の位置は何色？

2 あなたの自宅は何階建て？
(集合住宅の方は、住んでいる階数)

あなたの家庭での行動の目安

立退き避難 (水平避難)

浸水や土砂災害時には、大変危険な状況になることが想定されます。早めに安全な場所への避難が必要です。

※避難先は、市が開設する指定避難所だけではなく、安全な地域の「親戚・友人宅への避難」等も、自分の身を守る有効な手段です。

屋内安全確保 (垂直避難)

自宅の安全な場所で待機することが可能です。自宅の上層階など、浸水のおそれがない場所へ垂直避難をしましょう。

※河川の近くなど不安がある方は、水平避難をしましょう。

立退き避難 (水平避難)

避難情報発令前(指定避難所開設前) [警戒レベル2まで]

避難情報発令時[警戒レベル3以上]

洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域外の安全な地域の親戚・友人宅など

開設された指定避難所や、洪水浸水想定区域内でも安全が確保できる親戚・友人宅など

屋内安全確保 (垂直避難)

自宅の安全な場所で待機することが可能です。自宅の上層階など、浸水のおそれがない場所へ垂直避難をしましょう。

※河川の近くなど不安がある方は、水平避難をしましょう。

屋内安全確保 (垂直避難)

自宅の安全が確保できている場合でも、より安全な上層階へ移動することが避難行動となります。なお、夜間や急激な降雨により、避難所までの移動が危険な場合や、浸水などにより歩くことが困難な場合など、屋外に出ることがかえって危険なときは、自宅の2階以上や近隣のより高い建物へ避難するなど最大限命を守る行動をとりましょう。

避難を考える上での留意事項～「命を守ること」が最優先！～

- ここで示すのは、大雨時にとるべき行動の目安であり、絶対的なものではありません。身の危険を感じたら、命を守る行動をとってください。
- 被害想定がない区域においても、絶対安全というわけではありません。もしもの場合を考えて行動してください。
- 災害のリスク以外のことも考え、避難先や避難方法、避難のタイミングを考えましょう。
- 感染症禍や体調不良時でも「いざという時は、ためらわず避難しましょう。」

立退き避難は災害が発生する前に行うことが原則です。

避難について

避難行動には、親戚・友人宅や指定避難所など(※)の近隣の安全な場所へ避難する「立退き避難(水平避難)」と自宅の2階以上など、自宅のより高い場所で安全を確保する「屋内安全確保(垂直避難)」があります。

※ 指定避難所…災害時の避難先や被災後の生活の場所として、市が指定している施設
指定緊急避難場所…指定避難所のうち緊急時の避難先として優先的に市が開設を検討する施設

立退き避難 (水平避難)

避難情報発令前(指定避難所開設前) [警戒レベル2まで]

洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域外の安全な地域の親戚・友人宅など

立退き避難 (水平避難)

避難情報発令時[警戒レベル3以上]

開設された指定避難所や、洪水浸水想定区域内でも安全が確保できる親戚・友人宅など

屋内安全確保 (垂直避難)

自宅の安全が確保できている場合でも、より安全な上層階へ移動することが避難行動となります。なお、夜間や急激な降雨により、避難所までの移動が危険な場合や、浸水などにより歩くことが困難な場合など、屋外に出ることがかえって危険なときは、自宅の2階以上や近隣のより高い建物へ避難するなど最大限命を守る行動をとりましょう。

避難の心得

災害時の避難において最も重要なことは、「安全な場所」に「早めに避難」することです。「自分たちの命はまず自分たちで守る」という心構えをもち、常に落ち着いて行動できるよう考えておきましょう。

● 気象情報や避難情報などの防災情報を収集し、避難のタイミングを考えることを心がけましょう。

● お年寄りや子供、病気の方、体の不自由な方などは、早めの避難が必要です。避難に支援を必要とする方に協力しましょう。

● 避難するときは動きやすい格好で。2人以上での避難を心がけましょう。

● 夜間や浸水が始まってからの避難は周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前や浸水が始まる前に避難しておきましょう。

[浸水害の場合]

● もし、逃げ遅れたときは、自宅や近所の丈夫な建物のより高い所へ一時的に避難しましょう。

[土砂災害の場合]

● もし、逃げ遅れたときは、斜面と反対側の建物のより上の階に移動して、自分の身を守りましょう。